

～人口対策からコミュニティビジネスまで～

北原区は、高齢化と過疎化により、一人暮らしや老人世帯が増え続けており、今後限界集落となり、集落の維持そのものが危惧されています。

そこで、食品として人気のあるくるみを収穫できるくるみの木のオーナーを、オーナー制度により募集し、くるみの木の世話をするため北原区を訪れるオーナーとの交流を重ねることによって、地域の良さを知っていただき、移住・定住につなげたいと考えました。

また、委員会では、食品の利用度も高いくみを販売するコミュニティビジネス化を図るため、くみの木を計画的に植樹し、地域の経済の活性化に寄与していきたいと考えました。

平成20年度にスタートし、既に約20名のオーナーが40本以上のくるみの木を植樹し、北原区のくるみの木と合わせると50本以上のくるみの木が植えられました。

### ● くるみ公園の整備作業の様子



## 重機で草刈作業



バックホーで整地作業



植樹祭で記念撮影、雨の中でもにっこり  
(平成20年11月30日撮影)

## ● 植樹祭の様子



## 大沼聡さんの植樹



佐藤英樹夫妻の植樹

## ● くるみの木のオーナーさんとの交流の様子



オーナーさんの訪問  
そして記念撮影



オーナーさんと交流会  
(北原公民館にて)

信濃毎日新聞 平成20年(2008年)12月1日

## クルミで地域を元気に



飯山

住民の高齢化が進  
廃農地でクルミの木  
の人に地域を知って  
十三個人・団体が  
遠くは東京から駅は  
ながら作業をした。

飯

住民有志 遊休農地で木のオーナー制度

[illegible][illegible]

土巳の有名人が、区内の遊徒荒めたるクルミの世世通して市内外先へ選んでさわつたのを知つた。市への植樹を行い、市内をはじめ市民が、実のなる品後に思ひをせ

願つて

る公園と名づけ、クルミの木を一万口議員の市会へムムペを通告しナリを募つたところ、東京都神奈川府川崎、愛知県びなと和歌山府が集まつた。

三十日は、このつち組

進む高齢化  
区の存続課題 「将来は移住を」願って

北原区ふるさと暮らし支援委員会  
《長野県いきいき中高年社会貢献活動支援事業》